

2020.10.22 (木)
第15回例会
(通算 3609 回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「Together! 次世代へ共に築こうロータリー！」

第84代会長 舟木 博
副会長 土橋 賢一
幹事 荒井 剛
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2020-2021 年度
国際ロータリーテーマ



ロータリーは機会を開く
2020-2021 年度
RI 会長 ホルガー・クナーク
第 2500 地区ガバナー
松田 英郎 (富良野 RC)

月間テーマ

経済と地域社会の発展月間・米山月間

本日のプログラム

「情報集会報告会」(担当: クラブ研修委員会)

次週例会

「クリスマス家族会」(担当: 親睦活動委員会)

■ロータリーソング: 「それでこそロータリー」 ■ソングリーダー: 山原 活志君

■会員数 99 名

■ビジター なし

■ゲスト なし

会長の時間

舟木 博会長



皆さん、こんにちは。お食事の方は、どうぞお続けください。今週の火曜日、釧路ベイクラブの夜間例会に参加をしましました。表敬

訪問でしたので、石田ガバナー補佐、樋口ガバナー補佐副幹事の下、会長・幹事でご挨拶をさせていただきました。釧路ベイロータリークラブの例会で気付いた点がありましたのでお話いたします。

まず 1 点は、1 テーブルあたりの人数が 4 名しか座っておりませんでした。ソーシャルディスタンスがしっかりとられておりました。またテーブルの上には、マスクケースが置いてありまして、これも見習いたいと思っております。また登壇の際の踏み台があり、お年寄りには優しい気遣いがなされておりました。

さて、本日の『情報集会』の発表例会のタイトルであります。「国内友好クラブについて」の話し合い。考え方を会員の方から幅広く聞けることを楽しみにしておりました。

今年度の会長活動目標の 1 つ「国内姉妹・友好クラブの可能性を調査する」ということでした。これを視野に入れて行動をする予定でしたが、コロナ禍のために現在は制限をされて実施に及んでおりませんが現状です。ただ会長としては、素案を有しておりますので、

ひとつご紹介をさせていただきたいと思っております。

経緯は釧路との縁を考え、ただの交流だけではなく経済的な要素も含んだものと考えております。また希望としては、釧路と比較して温暖な気候の場所、文化や歴史的興味を持つ所、観光と美味しい食事ができること、などを考えております。

現在、釧路市では日本製紙の撤退に揺れておりますが、日本製紙と普段からのパイプづくりが欠けていたきらいがあるのではないかと思います。

私が考えておりますことは、いま釧路市となった音別の大塚製菓との縁を利用して、徳島の鳴門ロータリークラブとの関係を視野に入れた情報収集を密に行っておりました。このロータリークラブには、大塚の関係者が在籍をされております。鳴門市は位置的には、鳴門大橋で兵庫県の淡路島と繋がり美しい瀬戸内とその魚介類に恵まれており、鳴門の鯛は最高です。徳島とは、隣接する位置関係です。釧路と同じ海に面して立派な港湾施設があり、大塚グループの本拠地にもなっております。また釧路との関係では、大勢の人が大塚徳島工場に転勤で移動をしておりまして、釧路市出身の家族が大勢住んでおります。大事な交通アクセスですが、羽田空港経由で徳島空港に真っ直ぐ行くことができます。その他、関空から利用する便もございます。

また、鳴門市は私の趣味のお遍路の八十八箇寺の一番札所は霊山寺(りょうぜんじ)としてあり、阿波二十三箇寺のスタート地点でもございます。近くには、

第一次世界大戦の捕虜収容で有名な「板東俘虜（ばんどうふりょ）収容所」の跡地があり、クリスマスで歌うベートーベンの「第九・歓喜の歌」をドイツ人が日本で初めて合唱したことで有名です。現在は「ドイツ村」という観光地になっております。

この地は、四季の果物が生り、春には梅の花と桜の花が満開で、お遍路さんには最高の場所です。夏、徳島で行われる阿波踊りスポンサーにロータリーメンバーが入っており、阿波踊り見物も良い席で楽しめそうです。

いろいろ話しましたが、皆さんの好きなゴルフ場もごございますのでご安心ください。

以上、会長の私案をお話させていただきました。本日はありがとうございます。

年功バッジの贈呈 舟木 博会長



皆さん、こんにちは。当クラブで長年にわたりロータリー活動に貢献された2名の方に『年功バッジ』がR I 2500 地区より届いておりますので、ご紹介させていただきます。

それでは、紹介させていただきます。まずは、在籍30年・白幡 博君、いらっしゃいませんね。続いて、在籍40年・吉田 潤司君、ご登壇ください。

「出席優秀会員として、その功績を称え『年功バッジ』をR I 2500 地区より贈呈させていただきます。在籍40年おめでとうございます」

(在籍40年吉田潤司会員へ年功バッジ贈呈)

■本日のプログラム■ 情報集会報告会

クラブ研修委員会 委員長 邵 龍珍 会員

お疲れ様でございます。研修委員会委員長の邵です。本日は『情報集会報告会』ということで、過日10グループに分けて開催されました。報告者の皆さん、この後よろしくお願いたします。



今年度のテーマは、先ほど会長が想いをお話されましたので、その想いを汲んで情報集会のテーマとさせていただきますことをご理解願いたいと思います。

また、コロナの感染が拡大している中で、たくさんの方がご参加いただいて議論を深めていただいたことに研修委員会を代表いたしまして感謝を申し上げる次第でございます。

このあと順次発表をしていただきますが、発表者の皆さんに1つお願いがございます。10グループは初めてです。1人3分お話されても30分かかりますので、できれば2分半ほどで終わらし願いたいと思います。しご登壇されてその店や参加者・日にちなどは割愛して本文に入って、起承転結3分以内に発表をしていただければ素晴らしいロータリアンではないかと思しますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。また諸事情がございましてDグループ・土橋副会長から発表をしていただいて、その後、A・B・Cと流れていきますので、ご登壇、また降壇された後には次のグループの方がと、速やかな流れにさせていただければありがたいと思います。よろしくお願いたします。それでは、Dグループ土橋副会長よろしくお願いたします。

Dグループ土橋 賢一君



こんにちは。Dグループは人材不足ではありませんが、副会長だからといって許されません。

前向きな舟木会長の後にちょっと言いづらいのですけれども、Dグループ副会長の私ではなくDグループメンバーの一員としてお聞きいただければと思います。

タイムリーにも台北中央ロータリークラブとの姉妹締結が5年経ちまして、来年の5月にそのあとをどうしようかと昨今議論されているところですが、偶然にも周年やガバナーが輩出されて、地区大会があったり、そのような関係がありまして、毎年のように行ったり来たりになっていたものですから、皆さん「負担感」を感じておられる方が多々おられるのではないかと、その上に今回のテーマですから、果たして本当に大丈夫かと、ですから決して友好クラブを作ることが悪いことではないことは百も重々分かっていますので、今はコロナも相まって、アクセルを踏んだり離したり、踏んだり離したりというような心持ちですから、この話をするのには一番良くない時期だったのかという感じは受けております。

1人2分半ですから、秒針が付いていないので分からないのですけれども、決して友好クラブを作ることが悪いことではないと分かっていますので、このコロナが終息した後、またみんなでゆっくり、どうして行ったら良いかを検討していただきたい。ということがD

グループの意見でした。

以上です。ありがとうございました。

Aグループ 織田 亨君



Aグループは織田が発表させていただきます。私たちは、11月9日曜日、新型コロナウイルス感染が道内初の200名越えという日で、不安なスタートでしたがお酒が進むにつれて、全員が何事もない感じで盛り上がりまいました。まだ当日のメンバーで感染している者はおりませんので安心いただければと思います。

Aグループは泉先生を中心に、さまざまな釧路市の歴史等々の話を交えながら、ざっくばらんな会話をさせていただいたところです。

そんな中で、まず「当クラブの見聞を広げるために友好姉妹クラブが必要である」ということはもちろん全員が一致でした。そして「これは当クラブ単独ではなく、釧路7分区のロータリークラブが合同で行く方向を探るのが良い」という意見が多くありました。釧路7分区全体で他のクラブと友好を図ることが一層の活性化につながるということです。

そして、選定に当たっては先ほど会長からお話がありました音別にある大塚製菓ももちろん、そういう共通点をきっかけに。例えば鳥取県との交流を模索できないか。また、現在釧路ベイクラブで国内の港湾都市との交流を図っているので環境が同じ街と交流を図るということもどうなのか話しました。また、鹿児島県産の芋焼酎『真鶴』の鶴と言えば、釧路は『丹頂鶴』。これを共通項として鹿児島県との交流を模索する、などと様々な意見が出されました。

いずれにしても「釧路7分区が合同の形で積極的に進めていきたい」という話でした。すみません。以上です。

Bグループ 山原 活志君



皆さん、こんにちは。Bグループの山原と言います。よろしくお願いたします。Bグループは結果的にいうと、参加した皆さん「姉妹都市の設置は賛成」でした。賛成するにしても、「当クラブは、転勤の方が多いことから、いろいろな情報を持っていることで対応できる」という意見。あとは「選考委員会等々を組んで、慎重に選考するべき」という案がありました。例えば「観光立国ショー

ケースの関係で長崎や石川県の金沢」、あとは「同じ気候同士の所、また逆に違う気候同士の所で行き来があつて良いのではないか」という意見がありました。それで面白い意見、「まずは文通から」がありました。以上、Bグループでした。ありがとうございます。

Cグループ 森村 好幸君



皆さん、こんにちは。Cグループ・サブリーダーの森村です。Cグループは11月6日に八千代さんで行われました。そのご報告をしたいと思います。「炉辺会議」というのが私にはよく分からなかったのですが、その名のおりお酒を酌み交わしながら終始和やかに進められたと思っています。

クラブとして国内友好クラブの可能性と是非なども含めていろいろな討議がされました。最初はランダムに都市の名前が上がってきました。その中で一番多かったのが沖縄でした。友好クラブとして締結するのであれば会員の皆さんが楽しく何度も交流できる場所が良いのではないかと。行きたい場所が良いのではないかと。そのような理由だったと思います。ただ沖縄にも複数のクラブがあるので、そのクラブ同士の格も考慮すべきではないのかとの意見もありました。

その沖縄ということで、友好クラブを提携する意義は何だろうとなりましたけれど、「特に見当たらない」という話になりました。大義名分からいくと、今度は鳥取が出てきました。「鳥取は釧路市と昭和38年に姉妹都市を提携したことで、大義名分では一番良いのではないかと」となりました。その後、鳥取は鳥取で良いけれど、会員の皆さんが交流し続けられるような所か、あまり妥当ではないのでは、という話にもなりました。話が多方面にわたりタイムアップになってしまいました。

まとめとしては、友好クラブとしては、釧路ロータリークラブ会員が行きたい場所であること。互いのクラブとしての格を考慮すること。クラブ間の地理的な距離、費用負担等も考慮して慎重に考えるべき、という意見になりました。また相手側の意志も十分必要で、相思相愛がベストですね。でまとまると私はそう思っています。どうもありがとうございました。

Eグループ 柴崎 主悦君

Eグループの柴崎です。短くしようと思っていたところで、急にそんなことを言われても長くなるわけではないので、チャッチャと終わらせたいと思っています。Eグループは、私もリーダーの芦名さんも、ロータリー



の年数は長くない
ものですから『台北との経過』をいろいろ教えていただきました。

その話の中で、これから友好を結ぶ

のは良いけれども「まず一度、そこを検証してみる必要がある」というお話が先輩、割と古い方々からありました。飲みながら話をしていく中で、皆さんからもお話があったように「釧路市の友好都市・鳥取」や「秋田の湯沢」、「鶴が縁で岡山」、「鹿児島出水」はどうか、という話がありました。

いずれにしても、「大義名分、なぜそこなのか」が大事ではないか」という話。もうひとつは、鳥取なら鳥取でも良いのですけれども、釧路と同じように鳥取の街にも幾つものロータリーがあって、どこで友好クラブになるのかを考えなければならない、という話がございました。

現実的な話としては、できれば釧路から1本で行ける所、先ほど森村さんからもありましたけれども、行くのに1日、帰るのに1日であれば頻りに交流も行われにくくなるのではないかと話があり、例えば大阪から車で1～2時間、あるいは羽田や成田から1～2時間で行ける所は割と時間もとり易く行き易い所ができるのではないかと話がありました。

ただ、そこを最初に持ってきてしまうと、本末転倒の話になると思うのですが、「多くの候補の中から選ぶのがよい」というお話をさせていただきました。以上です。

Fグループ古谷 守生君



Fグループ古谷です。よろしくお願
いたします。皆さんの机の上に参加メンバーが書かれていますけれど、Fグループに樋口

さんのお名前がありますけれど樋口さん当日は欠席されておられました。

現行の台北中央ロータリークラブとの姉妹締結の経緯を天方直前会長から説明をいただきました。「現在の台北との交流頻度を見直してから国内の友好クラブを探してはいかがか」という意見もありました。また「交流も毎年行っておりますけれど、5年サイクルぐらいで良いのではないかと」という意見もありました。その意見を言われた方は、1度も交流訪問をしていない方でして、毎年行かれています方は、「行けば必ず楽しい」というご意見でした。

国内の友好クラブに関して、市内の近隣クラブでは友好クラブを作っているところがあるのかを確認したところ、先ほど話しに出ておりましたけれど、釧路ベイさんが「全国のベイクラブと交流をしております」というお話を聞きました。じゃ釧路つながりで、先ほど話が出ておりました「鶴・製紙業・大塚製菓に関連のある地域のクラブはどうか」という意見もありました。また「観光名所はあまり考慮しないで、特産物があるところが良いのではないかと」、「良いゴルフ場も必要だ」という意見もありました。地域では、「沖縄県・鹿児島県の南国を冬に訪問をしたい」、また「道内では、函館方面が良い」という意見もありました。また、ちょっと変わった意見ですけれど、釧路ロータリークラブは、浜辺で会員が100人の大規模クラブですけれど、関東以南の山奥で極端に会員の少ないロータリークラブを探してみて、仕事が定年になって暇を持て余している方が3カ月ほど滞在をして、毎週メイクアップに参加をする、という意見もありました。最後に、国内のロータリークラブで友好クラブを希望しているクラブがあるかないかを中央に聞いて見てはどうかという意見がありました。

以上で、Fグループの報告を終了させていただきます。

Gグループ得地 哉君



皆さん、こんにちは。Gグループの得地です。Gグループは会長が同じグループでして、今日の会長のお話と被っていますが、

今更原稿は組み替えられませんのでそのまま読ませていただきます。

まずは、前程としての話ですが、台北中央クラブとの交流のあり方を見直す時に国内友好クラブを新たに締結することはとても大切で、小さなクラブでも海外・国内と複数持っているクラブがあるという話がありました。そして、ロータリーのメリットについての話も出まして、ロータリーは世界的・全国的な広がりがあり他クラブのメンバーとのコミュニケーションが取れることが大きなメリットで、またメンバーは地域の有力者の集まりであり、メンバーのネットワークを広げることにより地域にも大きなメリットが生まれるという話がありました。そこで釧路クラブについて考えた時、次のような話が出ていました。

釧路クラブは、歴史と伝統のあるクラブであり100人規模のクラブとしての格があります。釧路クラブは、釧路の中でインフルエンサー的な存在です。釧路クラブが、釧路を代表するクラブであり釧路を代表する経済人の集まりであります。故に友好クラブを検討する

際には、経済界中心の付き合いを勘案することが大切です。クラブの規模からして友好クラブが3つぐらいあってもおかしくないクラブです。それなりのクラブとの付き合いにこそメリットもあると思います。釧路クラブにとってプラスなのかマイナスなのかのことが大切であり影響力がある所との付き合いが大切です。何よりもみんなが納得することが大切であり、釧路クラブにとって「ヨシ」とするロジックがなくてははいけません。コンセプトがブレたらダメです。というような意見が出ていました。

続いて、友好クラブを検討する時に、釧路は北海道の外れであり、南の国に憧れがあることが1つのポイントである。できれば、直行便かそれに準ずる旅程が組めることが望ましいという話でもありました。

ここからGグループの主題になってきて、舟木会長のお話にも被る部分が出てきます。縁もゆかりもない所であっても新しい出会いとつながりが生まれる。湯沢市・鳥取市など釧路市の姉妹都市の関係からのアプローチもあるが、いま釧路クラブとして何を重視して検討をしなければならないのか、から発展しました。日本製紙がこの状態の中で何をやるか。われわれができることは何なのか。釧路の状況を考えながら友好クラブを考えることは大切である。という展開になりました。

そこで具体的に出了地名が徳島です。釧路市音別の大塚製菓。この辺は割愛します。

まとめとして、今、日本製紙はこのような状況にある中で、大塚グループは重要なターゲットとなり得るし商工会議所としても取り組みやすい存在であると思われ、そのために釧路と先方の経済界の結び付きと民間での交流を深めることは大切です。大塚グループが釧路を出て行くことを阻止するためには、鳴門・徳島の経済人とのコミュニケーションが必要であり、何かがあった時のためにもコネクションと信用が大事です。

相手としては鳴門クラブ、ダメであれば徳島クラブという具体的な話もありましたが、経済規模の面から見ると、鳴門市の人口が約6万人、対し徳島市は25万人以上なので徳島市の方がベターではないか。徳島市を経済的なターゲットに、商工会議所の中核メンバーがいるクラブをターゲットにして検討をしてはどうかという話が出ました。

いずれにしても、あくまでも徳島の経済人とのつながりが大切であるという内容でした。

以上、雑駁ですが、Gグループの発表とさせていただきます。ありがとうございました。

Hグループ市橋 多佳丞君

皆さん、こんにちは。Hグループで担当をした市橋です。奇妙なもので、こういったご縁もあるのかなん

て思っているのですけれども。いと思ったリーダーも副リーダーもいなかったことで、皆さんの視線が私に向いていたのでとりあえず今ここに立たせていただいております。

その情報集会・炉辺会合の中で話されていた内容に関してですが、いま皆さんがおっしゃっているような内容が多かったと思っております。やはり日本製紙の撤退を受けた報道の後だったので、やはり大塚製菓といった企業をしっかりとクローズアップして行ったらどうかという話がありました。鳥取や湯沢という皆さんと似たような意見が多かったかと思っております。それと平行して、台北との付き合い方もしっかりと検証をしたうえで、続けることは一向に構わない。という付き合い方をしていくべきなのか、という話がありました。

突然振られたので、これくらいしかお話できなくて大変申し訳ございません。以上で終了させていただきます。

Iグループ廣部 雅資君

Iグループの廣部です。当日は、お酒も入りましたが、相当真面目に論議ができたと思いますので発表をさせていただきます。

まず、討議の前提として、皆さん

先ほどから台北のお話もありましたけれども、こういう話がありました。釧路ロータリーは100名以上の会員が在籍していて地域の中でもリーダー的な存在である。さりながら過去には内向的な一面もありました。2010年に台湾・台北との友好関係を築き始めて、2013年に台北中央ロータリーとの友好関係を築き、2016年のクラブ80周年の時に台湾中央ロータリーと提携をしたという経緯を聞きました。

提携については5年が期限で、現在84周年であと1年ということもあります。2018年にアンケートを実施した話がありました。その内容は、「台北中央ロータリーと今後どのような提携をしていった方が良いか」というアンケートと聞きました。そのアンサーとして53.8%の方が「国内クラブとの連携の方が良い」、15.4%の方が「海外クラブとの提携の方が良い」、そして25.3%の方が「必要ない」という結果だったとお聞きしております。こういったアンケート結果など



も踏まえながら、今後提携をしていく時にどのように考えていけば良いかを話しておりました。

その内容としては、「国際理解と親善を目的としたうえで、われわれと同様の課題があり、ともに活動を行うことができ、そして長く関係を継続できる所を選ぶ必要がある。提携をしたら人と人との交流・つながりを大事にしていきたい」。ちなみにですけれども、釧路北ロータリーはイラン、南は韓国、そしてベイは日本のベイ地域、と提携をしていると聞いております。

当時の交流で、特別天然記念物の『鶴』と『マリモ』を台北に贈っているということだったのですけれども、天然記念物を贈ることは画期的なことでも成果はあったという話もありました。この鶴は中国系と日本系の2種類がいるらしくて、日本の固有の鶴はいわゆる近親を繰り返しているので身体が小さくなってきていることもあり、他の種との交配も必要ということで非常に重要なことだったとお聞きしております。

次に、選定をしていくにあたって視点はどのようなのですけれども、国内友好クラブの選定では「友好をどのように考えるかが重要ではないか」という話になりました。

2つ視点がありまして、1つは街として・地域としてのつながりに重きをおくのか。もう1つは人としてのつながりに重きをおくということかと思えます。街や地域という意味では先ほどから出てきた長崎や金沢、徳島と地域性に共通点があるような所という話があったり、また人として、でいうと地区外で見聞を広げることができるということもありました。その中では、やっぱりNo.1ロータリー同士で交流を持つこともいい手ではないかと。合わせて、地の利の良い所と組むことが一番良いのではないかとなくなりました。例えば、銀座ロータリーという話なども出てきておりました。

最後、討議のまとめですけれどもこういった提携は義務感で参加をするものではなく、ロータリーのメンバー自身が趣旨を理解したうえで気軽に参加できて、気軽なメンバーで楽しい交流することが長きにわたって継続できる関係になる。そういう友好関係を築いていければ、という話になっております。

これはちょっと私もブルッと震えました。これは誹謗中傷ではありませんけれど、最後にこんなお話も出てきました。「十勝は札幌を見ている。だが、釧路は世

界を見ている。このような活動や提携等を通じて釧路を活性化させて、釧路を『日本のハブ』にしていきたい」。以上です。

Jグループ岩田 信一君



皆さん、こんにちは。Jグループの岩田です。Jグループは、リーダー・副リーダーが良いのか、資料のおり多くの方が参加していただきました。ありがとうございます。

時間がたくさんあるらしいのですけれども、次年度85周年を迎え、国内の友好交流をどのようにしていくかというテーマで話をさせていただきました。青年会議所の卒業生が多いということで、「鳥取や暖かい所で沖縄などと、交流というよりも現地に行って楽しむことが良いのではないか」「姉妹にしないで友好交流を目的に楽しめるように」そして「5年スパンで代えていくのはどうだろうか」「5年間の友好クラブ」「負担なく各地でゴルフを楽しむ」など、相手のロータリー次第ですけれども自然消滅しないためにも5年ごとに代えていくという話がありました。

やはり時間が経つにつれ話が違う方向に行ってしまいました。吉田潤司さんが来られたので昔話に花が咲き、大変有意義な会議でした。ありがとうございます。

クラブ研修委員会 邵 龍珍委員長

発表者の皆さん本当にありがとうございました。われわれの側もせかし過ぎて少し時間が短くなってしまいました。当日、委員会が各グループの発表者の皆さんに「3分しかないのでメモをしてほしい」と言ったのですけれども、今日は本当に皆さん普段ノーペーパーでお話をされる方が、きちんとスムーズにいくように準備をしていただいたことに、発表者の皆さんに感謝を申し上げまして、本日の『情報集会発表会』を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■舟木 博君 無事に表敬訪問例会を終了しました。ありがとうございます。

今年度累計 224,000円